

# 米朝首脳 初会談

## 完全非核化 合意が焦点

【シンガポール共同】清水敬善、松本安二 トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長は12日、シンガポール南部セントーサ島のカペラホテルで会談した。両首脳は冒頭で握手した。米朝首脳会談は史上初めて。核・ミサイル開発を推進し、国際社会の非難を浴びた北朝鮮の「完全な非核化」に関する合意が得られるかが最大の焦点だ。休戦状態にある朝鮮戦争の終結や、日本人拉致問題も議題となる。アジアの安全保障環境は新たな局面を迎えた。



会談の冒頭で握手する北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長(左)とトランプ米大統領  
=12日、シンガポール(AP=共同)

両首脳は通訳を交え一対一での会談に入り、トランプ氏は金正恩氏と会えて「光栄だ。素晴らしい関係を築く」と述べた。金正恩氏は、過去を克服してここまで来たこと述べた。トランプ氏は12日早朝、ツイッターで米朝首脳会談について「過去の合意と違い、真の合意を得られるかどうか、すぐに分かる」と抱負を述べていた。

一対一の会談の後、高官らを加えた拡大協議を続け、昼食を共にしながら話し合う。トランプ氏は午後4時(日本時間同5時)に記者会見し、会談結果を説明するとみられる。

「完全かつ検証可能で不可逆的な非核化」を求める米国の立場は不変とし、会談で「後に続く困難な作業に向けた枠組み」をつくらんとした。北朝鮮が完全な非核化に応じれば体制保証に応じる考えを重ねて示した。

トランプ氏は11日の安倍晋三首相との電話会談で、拉致問題を提起することを「100パーセント保証する」と表明しており、金正恩氏の反応にも注目が集まっている。

非核化実現まで制裁を解除しないとする米側に対し、北朝鮮は非核化の行動ごとに制裁解除などの見返りを得る「段階的措置」を求めている。

ポンペオ国務長官は11日